

たちばいようすい

立梅用水

[三重県・多気町 他]

- 水利条件が悪く、畑作しかできなかった地域だったが、1,300年前から続く水銀の掘削技術を応用し、延べ25万人を投入して、水路が1823年に完成。
- 水路延長が30kmと長いことから、水路自体に水を貯留することが可能。これにより、水害の危険性を減少させるとともに、安定した用水供給が実現。
- 戦後の高度成長期には、施設存続の危機があったが、「あじさい祭り」などを通じて地域住民と一体になった維持管理。

Tachibaiyousui Irrigation Canal

地域と一体となって
保全される多面的機能水路



1907年頃の立梅井堰



大師の里 彦左衛門のあじさいまつり
(立梅用水ボート下りを楽しむ来訪者)



柳谷トンネル (素掘り隧道)



エンゲ切り通し